

八幡工高新聞

発行者
滋賀県立八幡工業
高等学校 新聞部
J R C 紹介号

募金活動で能登を支援 JRC同好会 近江八幡駅前で実施



JRC同好会のあまり知られていない活動内容について過日実施された募金活動を通して取材してみた。JRCとはJunior Red Cross（ジュニア・レッド・クロス）の略称で青少年赤十字と呼ばれる組織だ。

本校JRC同好会は2月8日・15日、3月4日、8日・14日の5回にわたり、今年1月1日に発生した、能登半島地震の被災者支援の募金活動を近江八幡駅前(北口)で実施した。この募金活動は47都道府県の高校生による募金プロジェクト『47分の1プロジェクト』の一環として行われたものだ。今回本校JRC同好会(以下JRC)が行った募金活動は毎回1時間ずつ。手作りのポスターや募金箱でたくさんの方々に募金を呼びかけた。5日間で募金は、計52,008円になった。今回集まったお金は全額被災地に送られた。このような募金活動は過去に校内では数回行われていたが、校外での募金活動はここ数年では初となる。

JRCの活動は県内では八日市南高校を中心に八幡高校、守山高校、高島高校、MIHO美学院高校、本校の6校が活動している。今年度からは栗東高校も加わった。

今春には八日市南高校と本校で二畳風の骨組みと紙貼りをを行った。この二畳風は1学期終業式に7校が集まり八日市南高校のグラウンドで揚げられる予定だ。東北震災被災者支援の一環として八日市南高校が毎年制作している風を、今年は能登半島地震の支援として“能登の青い海を取り戻そう”という願いをこめて判じもんを『海』に決めたそう。

現在、JRCの部員数は2年生7人で毎週木曜日に活動中だ。春と秋に開かれる『高校生連絡協議会』に参加しボランティア活動の知識を身に付けたり講習を受けたりしている。

夏休みにはリーダー養成を目的とした『JRCリーダーシップ・トレーニングセンター』という研修に参加し、レクリエーションやフィールドワークを通して、さまざまな課題をクリアしていく力を身に付ける。普段は学校周りのゴミ拾いなどをして環境美化に努めている。

また、7月下旬から8月上旬にかけては

少年赤十字は滋賀から全国へ 少年赤十字100年のあゆみ

驚くことに、国内初の少年赤十字団の取り組みが始まったのは滋賀県だ。なぜ、滋賀県からだったのか、疑問に思った新聞部はその経緯などを日本赤十字社滋賀県支部にメールで取材したところ事業推進課 田中さんから会報誌『いとすぎ』に掲載されている文面を送っていただいた。

それによると、1922(大正11)年5月5日に守山小学校(当時野洲郡守山尋常小学校)から始まった。1922年にジュネーブ(スイス)で開かれた第二回赤十字社連盟総会で少年赤十字の重要性が掲げられ、その組織化が決議された。そこで、日本赤十字社では、尋常小学校5・

6年及び高等小学校(今の中学校)の児童で結成・組織する『少年赤十字の実施に関する通牒(国家の一方的意思表示を内容とする文書)』を出した。

これを受けて、日本赤十字滋賀支部、支部長、県知事などが、各学校に結成を強く後押しをしたのではないかと考えられる。その中で、守山尋常小学校の校長が学校創立50周年の記念にもなると考えられ結成したという説が有力である。実に通牒交付されたその日に結成したのは驚きである。

結成から13年後の1936年3月には県下すべての小学校が少年赤十字に加盟している。そして、2022

年には創立100周年を迎えた。長浜市立七郷(ななさと)小学校では、1949年から今日まで、地域の病院を訪問し、患者さんに児童たちが育てた花を届ける『天使の活動』が、祖父母の時代から三代にわたって続けられている。

令和4年度末の滋賀支部加盟数は、公私立の保・幼・小・中・高・特別支援学校を合わせて計227校園であり、今後のさらなる増強と躍進が期待される。



← 守山駅西口広場にある
顕彰碑

本校JRC同好会の主な活動計画

5・6月	高校生連絡協議会(春季高文連中の講習様子 下写真)
7・8月	『はちの子』に参加
8月	リーダーシップ・トレーニングセンター
9月	市内イベント ボランティア
10月	高校生連絡協議会
11月	市内ボランティア講習
11・12月	各地域イベントの手伝い(ボランティア)
1・2・3月	募金活動など

『はちの子』に参加する。発達に遅れがある子らとペアを組み、一緒に遊んだり買い物に出かけたりイベントを楽しんだりする活動をしている。一緒に過ごす時間を多く取ることに子どもたちの心のリフレッシュが目的だ。その他にも地域行事の前日準備や行事で出店される屋台の手伝いなど幅広く活動している。

また、今年は本校のJRCの生徒3名が近江八幡市の『赤い羽根共同募金』のバッジの選考委員に選ばれた。このバッジは赤い羽根共同募金の活動を広めることを目的として、作成されることになっている。

JRCの小西さん(2-3)は「同好会の魅力は第一に地域への貢献。ごみ拾いなどをしてしていると「ありがとう」と感謝されることがあり、また他校との交流もあり様々な人や場所とつながりが持てる」と話した。

これからもボランティア活動を通して人々の役に立ってほしい。

(永・一)



女性から募金される様子・近江八幡駅北口で



救急講習の様子